

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	22-029	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Strategies to cut down drinking, alcohol consumption, and usual drinking frequency: Evidence from a British online market research survey 飲酒量・飲酒頻度を減らすための戦略：英国における市場調査結果からのエビデンス		
執筆者		
Sasso A, Hernandez-Alava M, Holmes J, Field M, Angus C, Meier P.		
掲載誌		
Soc Sci Med. 2022 Oct; 310: 115280. doi: 10.1016/j.socscimed. 2022. 115280.		
キーワード	PMID	
誘惑、行動変容テクニック、飲酒量、潜在クラス分析	35994876	
要 旨		
<p>目的：危険飲酒者が専門家のサポートなしに飲酒量を減らす方法についてはよく知られていない。本研究では、英国男性において、飲酒量を減らそうとする場合、どのような方法を取っているのか調査し、その方法により飲酒量が違うかどうかを検討した。</p>		
<p>方法：市場調査会社 Kantar が収集した飲酒記録データを用いた。飲酒量を減らそうとしている英国成人 49204 人を本研究の対象とし、1 週間の飲酒量および、どのように飲酒量を減らそうとしているかについての情報を用いた。潜在クラス解析（LCA）を用い、飲酒減量パターンを特定し、パターンによる飲酒状況を比較した。</p>		
<p>結果：4つの飲酒減量パターンが抽出された。すなわち、①飲酒の機会を減らす等の事前にコントロールする方法（29%）、②アルコール度数の低いものを選択する方法（28%）、③飲酒量を減らす方法（5%）、④②および③による方法（38%）であった。①のパターンでは、他のパターンに比べ、飲酒機会ごとの平均飲酒量が多い傾向にあったが、週当たりの飲酒量は少なかった。</p>		
<p>結論：本研究の結果は、飲酒量を減らすための有効な方法を検討するために有用であると考えられる。</p>		